

秀作

2022

第20回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

世界自然遺産となったシマ

鹿児島県・鹿児島第一高等学校 1年 南 結衣

サンゴ礁の白い砂浜、青々しい山、コバルトブルーの海。私の故郷・奄美大島は徳之島、沖縄島北部及び西表島とともに2021年7月26日に世界自然遺産に登録された。世界自然遺産とは世界遺産条約で「顕著な普遍的価値」を有すると認められた文化や自然のことで、人類共通の財産として保護し、後世に伝えていくため世界遺産リストに登録されたものである¹⁾。今回の登録地域の面積(4万2,698ha)は日本の国土の0.5パーセントに満たないながら、生息する国際的絶滅危惧種は95種、そのうち固有種は75種を数える。特に広大なマングローブ林やシイの森にはアマミノクロウサギ、オオトラツグミ、アカヒゲといった希少性の高い多くの生物が共生している²⁾。奄美大島で暮らす人々は自然に寄り添い、独自の文化を築いてきた。人と人とのつながりを大切にし、どこか懐かしいあたたかさを感じさせる島。そんな島で私の祖父母は伝統工芸品である本場大島紬^{つむぎ}を製造・販売する傍ら観光業を営んでいる。彼らは登録が検討され始めた2003年ごろから今までの、奄美大島における進歩をずっと見てきた。それだけに今回の登録を誰よりも祝福していたが、同時に危機意識を強く持っていた。「環境と経済のバランス」、これを保つことが最大の課題だ。お盆の帰省時に祖父の話をたくさん聞く中で、いち早く私が情報収集・考察しなければと感じた。そこで祖父からの話に数値的な裏付けを挟みつつ、奄美大島における世界自然遺産の効果と将来性を注視した私の意見について述べることにする。まず、奄美大島の観光客数に着目した。以下で示す入域数とは奄美群島外から奄美大島へ入った人の数であり、入込数^{いりこみ}は群島内から移動してきた人に入域数を加えた合計数を指す。群島内の各島から奄美大島へ移動してくる人の多くは、仕事や通院を目的としているため、今回は入域数に着目することにする。世界自然遺産登録前の2019年(令和元年)の入域数は過去最多の44万9,138人だった³⁾のに対し、2021年(令和3年)の入域数は27万6,565人だった⁴⁾。新型コロナウイルス感染症の影響による航空

便の減便やクルーズ船の寄港数の大幅減のため、2020年と2021年の入域数・入込数はともに減少傾向だ⁵⁾。しかし鹿児島県の統計によると奄美大島においては2021年の12月は2019年の水準まで回復していたそう。

これから世界自然遺産登録の効果が出てくるだろう。それは約30年前に同じく登録された屋久島の入込数(屋久島外から入ってきた人の数)を見ても明らかだ。登録された1993年(平成5年)の20万9,219人から増加を続け、15年後の2007年(平成19年)には40万人台を突破した。しかしそこからは減少傾向が続く⁶⁾。考えられる要因としてマイナス面に対処する間も無いままに観光客が押し寄せ、実際に来島した方の中で良い面よりマイナスイメージが先行してしまった方が一定数いたことが挙げられるのではないかと私は考える。例を挙げると心ない観光客による縄文杉の損傷、マナーの悪い登山客によるゴミやし尿の放置、高料金・低サービスといった悪質なガイドの出現などである。今回の自然遺産では、皮肉なことにコロナの影響のおかげで観光客の増え方が緩やかになったため良い面をじっくり見てもらえるチャンスだと思う。日本の自然遺産には先例がある。この機会を有効利用し、予測される課題に備えたい。

上で述べたように観光客がこれから増えていくことは容易に予想できる。しかし世界自然遺産登録による経済効果を短期間で終わらせないために、私は必要なことを考えた。まず奄美には現時点でマクドナルドや吉野家は無く、全国チェーン店は少ない。世界自然遺産となれば新しい建物をつくる基準も高くなり、そのため私は地元の企業が儲かるのではないかと考えていた。しかし自然遺産に登録されたのは一部であり、北部などの市街地ではこれから外部企業の進出が考えられる。地元のホテルを経営している祖父の友人によるとここ数年、ホテルの部屋にコンビニ弁当のゴミが捨てられていることが多くなったそうだ。ダイビングやサーフィンを目的として来島した宿泊客は目的の達成のみが眼中にあり、食事や土産を楽しもうという意識が低くなっているように思う。その結果島外の企業が運営するファストフード店やコンビニなどを利用する方が増え、地元の食事屋や土産屋にお金が落ちにくくなるということが起きているのだ。さらに祖父母の作っている本場大島紬は1反数十万円から上のものはキリがないくらいに高価なもの。購入者がいるからこそ、このような地場産業は成り立っている。大事なものは観光客の増加だけでなく、来島客一人あたりの地元購買額を増やすことだと私は考え

る。その地を愛し、余すことなく良さを楽しんでもらうことが観光と経済の両方において目指すところだ。せっかく足を運んでくださったからには奄美大島でしか味わえない文化や伝統を存分に楽しんでほしいと私は願っている。

世界自然遺産の目的は世界的にも貴重な自然環境を着実に保全すること、その上で、観光活性化を通じて経済・産業を元気づけること。さらに、ゆくゆくは、それによって地元の人々の地域への誇りや愛着を強化し、人口の確保・維持を成し遂げ、奄美を長期的に繁栄させることである。琉球、薩摩、アメリカと支配者が変わる歴史の波に翻弄されながら育んできたシマの心で、日本はもちろん世界各地からやってくる観光客とも上手く手を取り合うことができるはずだ。「環境と経済のバランス」を保つために各個人が努めよう。自然・文化・伝統をもっともっと先の世代までつなぐために。

(注)

- 1) 日本自然保護協会「世界自然遺産ってなに？」
URL <https://www.nacsj.or.jp/2018/05/10170>
閲覧日 2022年8月18日
- 2) 奄美大島世界遺産センター パンフレット
- 3) 鹿児島県「奄美群島への入込客数・入域客数(平成31年1月～令和元年12月)について」
URL https://www.pref.kagoshima.jp/aq01/chiiki/oshima/chiiki/zeniki/oshirase/documents/38010_20200305144423-1.pdf
閲覧日 2022年8月18日
- 4) 鹿児島県「奄美群島への入込客数・入域客数(令和3年1月～12月)について」
URL http://www.pref.kagoshima.jp/aq01/chiiki/oshima/chiiki/zeniki/oshirase/documents/38010_20220322132648-1.pdf
閲覧日 2022年8月18日
- 5) 鹿児島県「奄美群島への入込客数・入域客数(令和2年1月～12月)について」
URL http://www.pref.kagoshima.jp/aq01/chiiki/oshima/chiiki/zeniki/oshirase/documents/38010_20210317163808-1.pdf
- 6) 環境省「屋久島への入込者数等の推移」
URL <https://www.env.go.jp/park/yakushima/ywhcc/wh/arikata/1/161225-4-2-3.pdf>
閲覧日 2022年8月18日

